

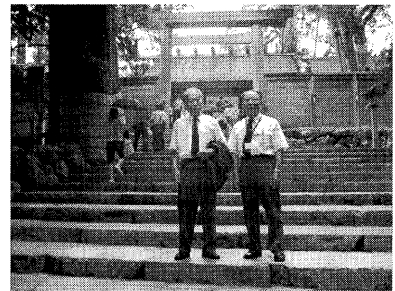
1. 見 聞 紀

地域総合研究センター
研究員 建石 繁明

高校の修学旅行以来なぜか、三重県を訪れる機会がなく、53年ぶりの旅でした。トリップ53年来といっても、目的は「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」です。人にやる気を起こさせることなど、私にとって、難関中の難関であるが、「人に振り見て我が振り直せ」で先進地の姿や行動を学ぼうと思った次第です。

やはり一番の楽しみは、人にやる気を起こさせることの大先達である玉井先生との対話が、超一流のアジテーターから直接に、現場を前にして話が聞けることです。バス乗車は1時間が限界の私も、皆さんの仲良く、楽しくに支えられて、車酔いもせず乗り切ることができました。

印象に残ったことの第一は伊勢神宮などという、恐ろしい所に参拝できたことです。修学旅行の時の印象では、五十鈴川の清流の美しさ、境内の玉砂利が記憶にありましたが、今回は、手入れの行き届いた林・森林、そして大樹の姿でした。



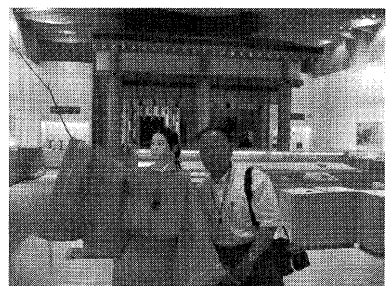
伊勢神宮にて玉井先生と

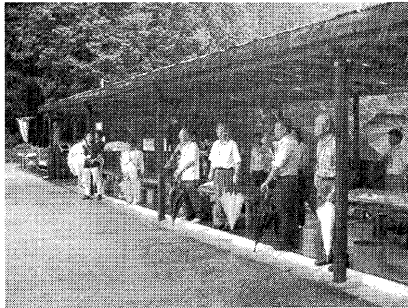


第二は、やはり、玉井先生ご推奨の丹生山近長谷寺の高さ6.6メートルの十一面観音立像です。説明者の熱い思いを聞きながら、写真を夢中で撮り続けました。仏像の裏に廻って、樟の木組みまで見せてもらいました。

参道には美しいサワガニの雄雌が何匹かいて、私たちを出迎えてくれました。ぜひ、再訪したいお寺だと思いました。

第三には、斎宮歴史博物館です。斎宮について、私は全く何も知りませんでした。伊勢神宮につかえた未婚の内親王(女王)たちの悲しくも、美しい歴史の断面をかいま見たように感じました。庭には、私が始めて見た砂地に生えたコブツダケがありました。縦に切って内部を観察すると小さな粒々がぎっしりつまっていました。



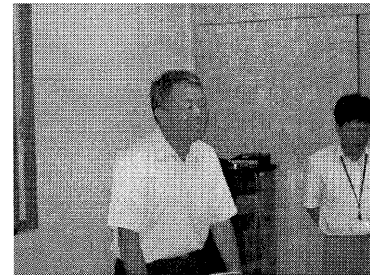


「水と土の地域資源に注目した保全・増進・活用」の立梅用水「水土里ネット」の取り組みから、私が出たものをまとめてみますと、私たちの生きる原点は地域にしかないこと、人の輪、連帯感を共有することの必要性でした。人の流れを表示してみますと、先達（先導

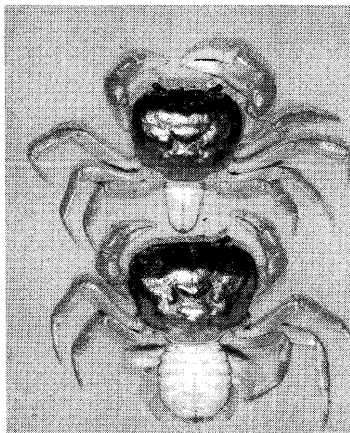


的实践者) → 先覚的リーダー又は、指導的リーダー → それを支える人々 ⇔ 行政 ⇔ 制度 ⇔ 組織。誰でも仲良く、楽しく参加できることが条件ではないかと思いました。

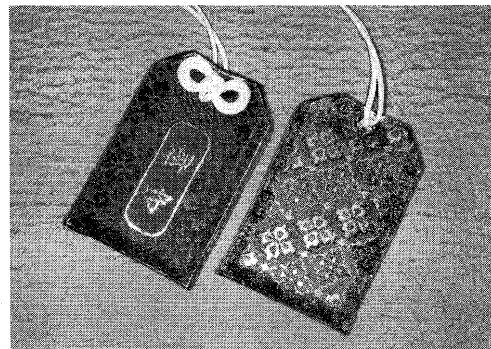
人が生きるに必要な装置、山・川・森。誰もが地域の多面的な監視人になることかもしれません。



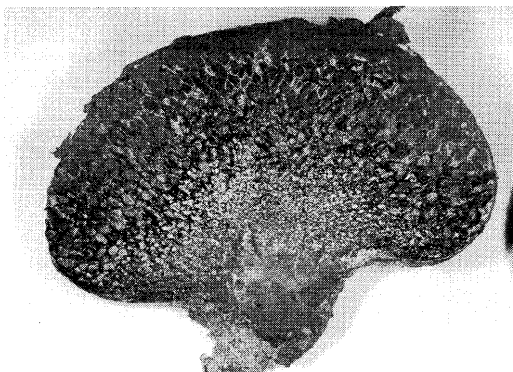
立梅用水の説明をしている
高橋 幸照さん



9. 近長谷寺へ道案内をしてくれたサワガニの雄と雌



10. 私が旅行先で生まれて初めて買ったオミヤゲです



11. 斉宮歴史博物館の庭にあったコツブタケ
内部は小粒状